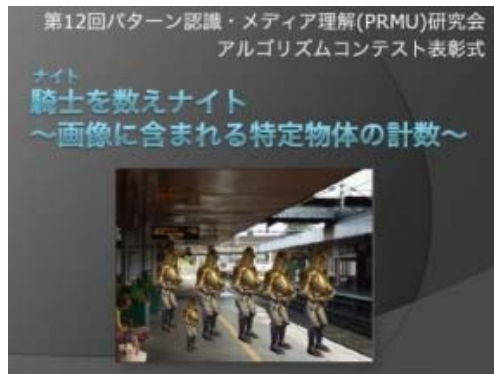




↑ポスター

Menu

- Home
- コンテスト結果
- コンテスト概要
- 応募要領
- スケジュール
- ダウンロード
- チュートリアル
- リファレンス
- よくある質問
- 過去のアルコン



表彰式プレゼン

- PPTX形式(for PowerPoint2007) (8.5MB)
- PPT形式(for PowerPoint2003 and earlier; 互換性未確認) (10MB)
- PDF形式 (3.9MB)

結果発表

最優秀賞(1件)

「直線上の色の変化を比較してマッチング」

- 吉村 宗浩
 - 立命館大学 情報理工学部
メディア情報学科 3次元ビジョン研究室 B4
- 応募レベル1
- 平均スコア91.1点、平均計算時間1.69秒
- 講評
 - 「特徴線」による新しい方法を提案しており、オリジナリティが極めて高い
- 副賞
 - DVDレコーダー DIGA DMR-XP12
 - 図書カード2万円分



優秀賞(2件)

「画像に出現する色のプロットを用いた目的画像探索」

- 河野 修久
 - 広島市立大学大学院 情報科学研究科
知能工学専攻 データ工学研究室 M1
- 応募レベル1
- 平均スコア100点、平均計算時間2.02秒
- 講評
 - 個々の処理は平凡なものであるが、非常に綿密に組み合わせることで性能向上を達成しており、完成度は大変高い
 - 他のレベルでもいけるのでは？
- 副賞
 - デジタルカメラ LUMIX DMC-FX35
 - 図書カード1万円分



「円形テンプレートを用いたアクティブ探索法による物体の位置検出」

- 楠 卓也
 - 広島市立大学大学院 情報科学研究科
知能工学専攻 画像メディア工学研究室 M2
- 応募レベル2
- 平均スコア94.8点、平均計算時間1.15秒
- 講評
 - 円形領域を抽出することにより、回転に対するロバスト性を担保できていて、なおかつスコアが高い
- 副賞
 - Apple iPod nano 8GB
 - 図書カード1万円分



入賞(3件)

「顔色三色による三角形の出現を用いたアルゴリズム」

- 平原 一帆
 - 広島市立大学大学院 情報科学部

- 応募レベル2
- 平均スコア75.4点、平均計算時間2.78秒
- 講評
 - すべての色ではなく、最頻色の1色と、それと異なる2色を用いて、三角形を特徴量にしているところが光るアイデア
- 副賞
 - USB接続外付けHDD Buffalo HD-PF400U2-WH



「色の分布と形状の特徴を用いたアルゴリズム」

- 高田 征吾
 - 立命館大学 情報理工学部
メディア情報学科 3次元ビジョン研究室 B4
- 応募レベル2
- 平均スコア62.6点、平均計算時間0.13秒
- 講評
 - 参照画像に存在しない画素から見るべき領域を削減したことが奏功して、レベル2にもかかわらず、高速である
- 副賞
 - デジタルカメラ LUMIX DMC-FX55



「円形テンプレートの色情報を用いた類似画像探索」

- 山崎 真也(M2)
- 古畑 俊一郎(M2)
- 佐藤 秀昭(M1)
- 渡辺 大介(B4)
 - 筑波大学大学院 システム情報工学研究科
知能機能システム専攻 画像情報研究室
 - 筑波大学 第三学群工学システム学類 画像情報研究室
- 応募レベル3
- 平均スコア57.4点、平均計算時間60.95秒
- 講評
 - 回転に不変になるように円形領域の色ヒストグラムを用いたのは、おもしろいアイデア
 - 円領域以外の情報を捨てる潔さは評価できる
- 副賞

- デジタルカメラ LUMIX DMC-FX55



審査員特別賞(1件)

「飛相似による特定画像の検出」

- 正井 秀俊
 - 筑波大学 第三学群工学システム学類
知的工学主専攻 延原研究室 B4
- 応募レベル1
- 平均スコア67.0点、平均計算時間0.04秒
- 講評
 - 中心点を基にした単純な処理ではあるが、アイデアは新しく計算処理も早い
 - 非常に高速で、スコアも悪くない
 - 1枚だけ非常にスコアの低い画像があり、平均スコアが下がっている
- 副賞
 - ニンテンドー DS Lite



特別講演

講師: 佐藤 真一先生(国立情報学研究所)

「画像照合から始まる画像認識への道程」

画像照合は、画像解析におけるもっとも基本となる処理の一つである。本講演では、本年度のアルゴリズムコンテストの課題に対して必要であった画像照合に基づき、これをさらに一般化していくことにより、顔検出に代表される物体検出技術、顔識別や一般物体認識などの画像識別技術、さらには巨大な画像・映像データベースから有用な情報を発見するためのマイニング技術にまで発展可能であることを解説する。



お問い合わせ:アルコン2008 実行委員会
alcon2008(あつと)m.cs.osakafu-u.ac.jp